

森忠政 1570~1624

・信長家臣の森可成(金山城主)

の六男

・兄森長可成 天正12年(1584)に

長久手の戦いで戦死。家督。

・秀吉家臣 羽柴姓

文禄元年(1592)肥前名護屋城
築城助役。

・慶長5年(1600)信濃
海津城(後の松代城)

13万石に転封

・慶長8年(1603)美作津山

18万石に転封

石根上に連なる曲輪

腰曲輪

西VI

腰曲輪

日本一の
大堀切



山城

比高 180m

東西 310m、南北 130m

城内曲輪面積 8,900m²

籠城兵力 500人

- ・a. 中心部は 総石垣(近世城郭)
- ・b. 他の中世山城と比べると巨大
- ・c. 近世城郭と比べると 小規模

・中世山城を近世城郭に改修

・天正13年(1585)~慶長4年(1599)

森忠政が改修

(天正10年(1582)~12年森長可成
着工)

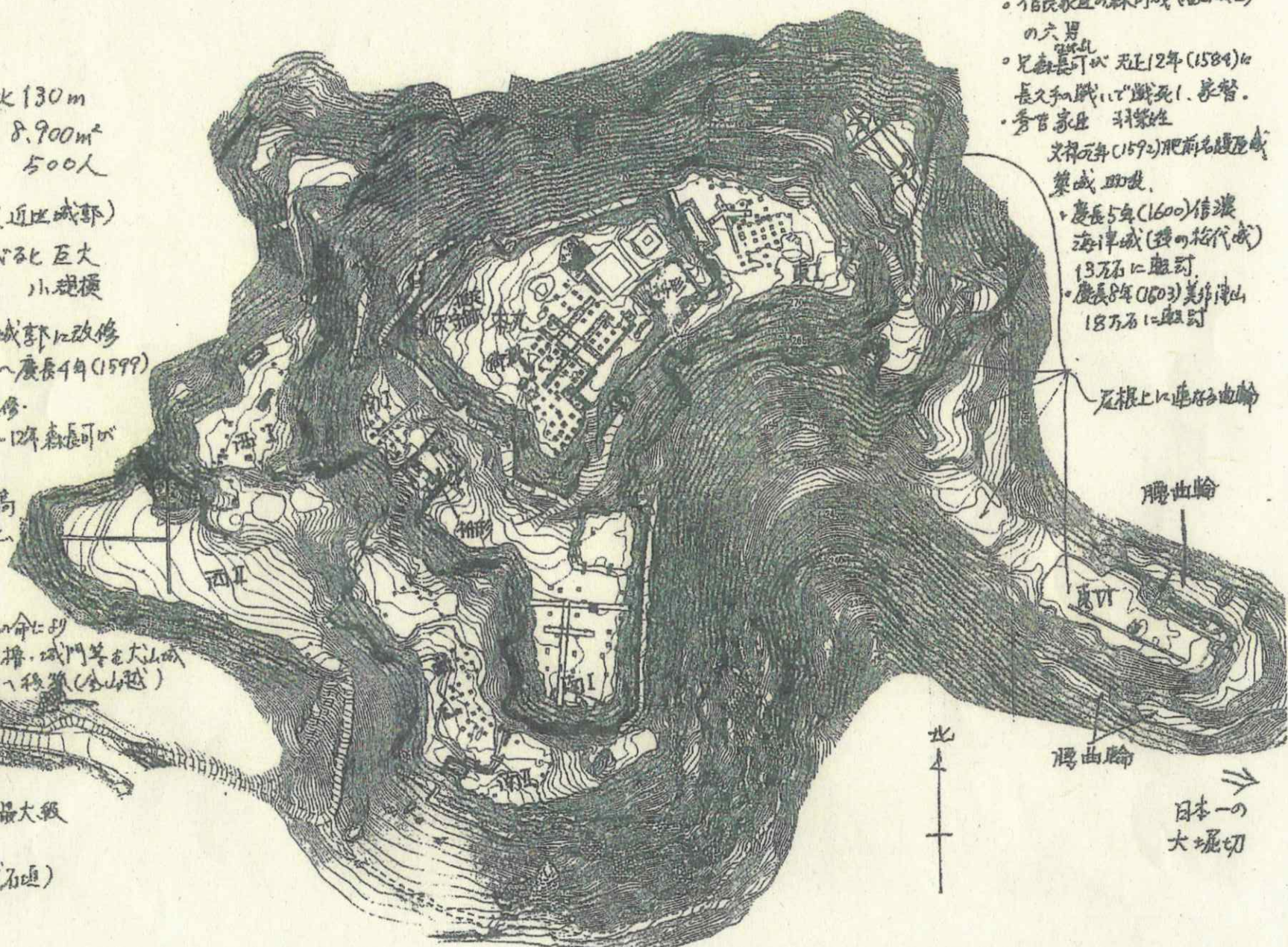
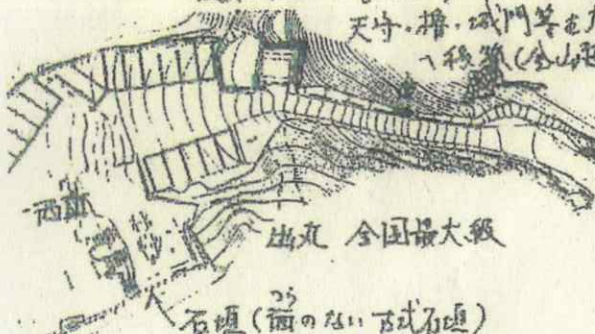
- ・d. 改修時期は森家の禄高
7万石、総石垣から石垣
本丸=天守城存在した
と考えられる。

・慶長6年(1601)家康の命に於

天守・櫓・城門等を大改修
→移築(金山越)

出丸 全国最大級

石垣(面のない石垣)



(岐阜県可児市金山)

金山城跡現況地形測量図

1:1000

50

100m

『金山城跡発掘調査報告書』(可児市教育委員会, 2013年)所収

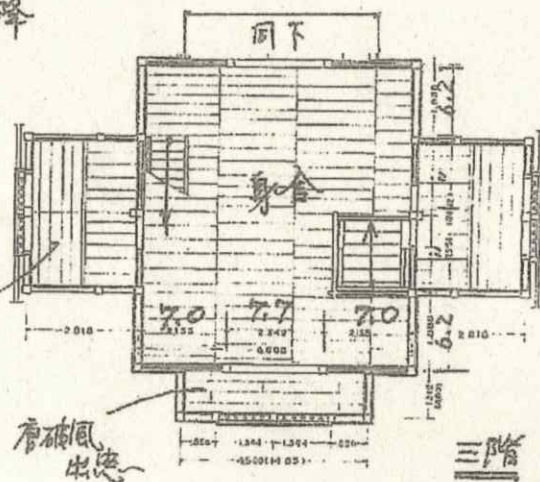
犬山城

古式な点、... 関ヶ原以前

- (1) 一階に玄関と納戸がある。
- (2) 入側(武者走)に杉戸の仕切りがある。
- (3) 中がけ(石垣築造技術の低下)が著しい。

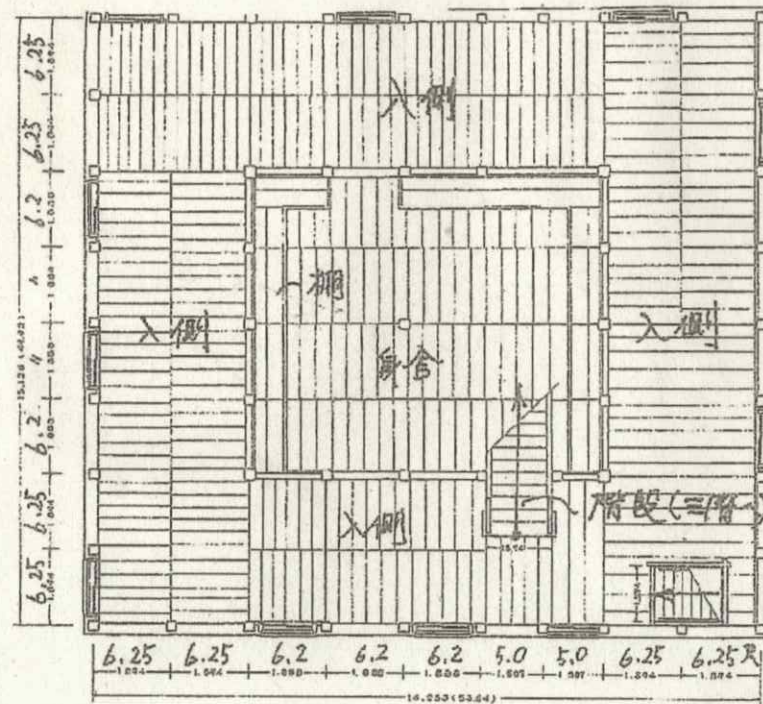
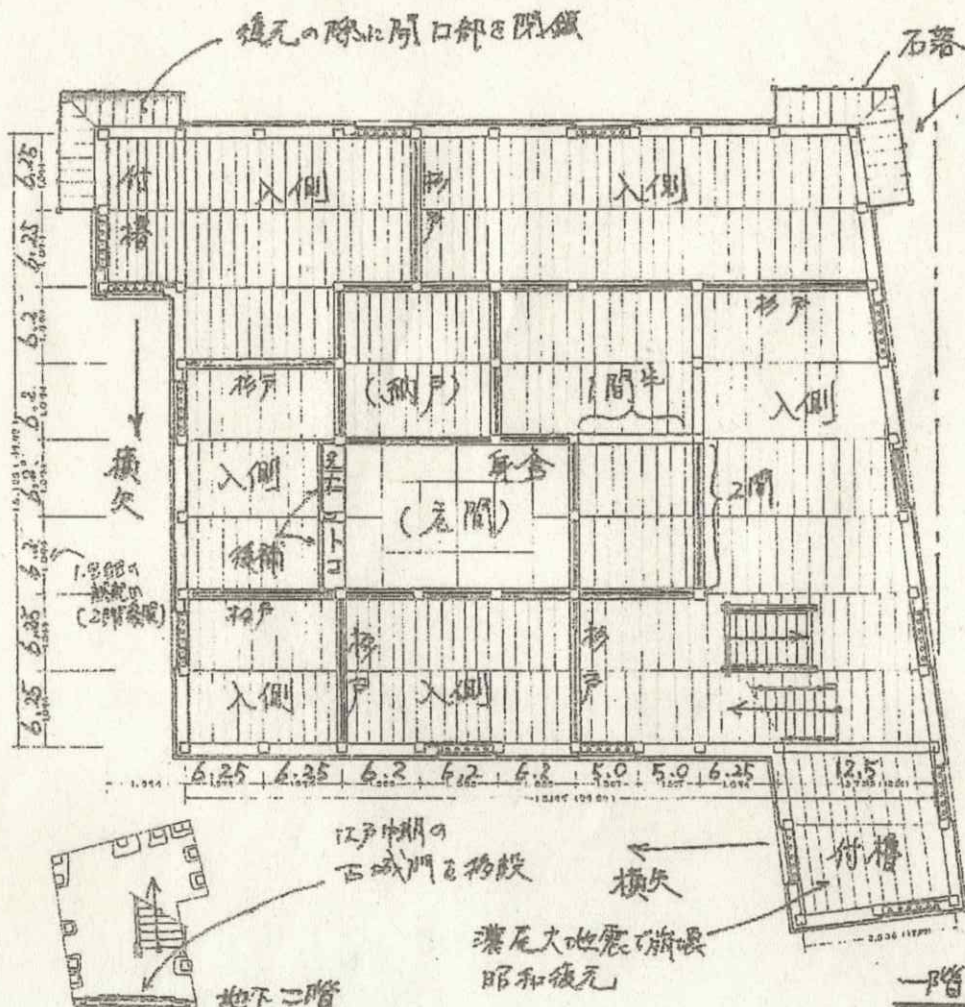
新式な点、... 関ヶ原以降

- (ア) 四階が大きい
(三間×三間より大)
- 特殊な点
(イ) 穴蔵が小さい。



三階 (三間×四間)

四階も三間×四間



二階

(八間半×八間)

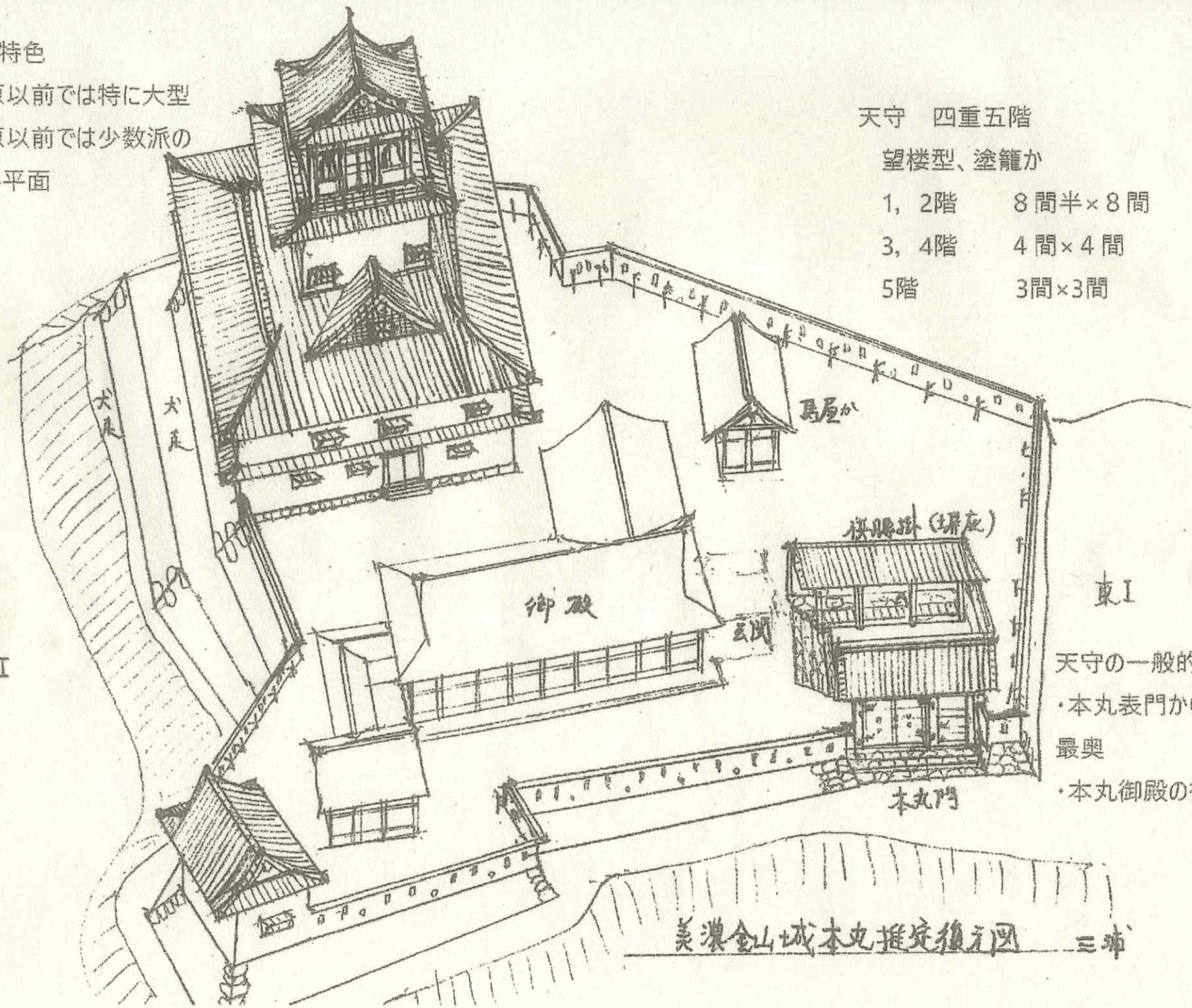
◎ 犬山城天守

三重四階 地下二階、望楼型天守

慶長六年(1601) 石臼 慶長元年(1596)
金山城別移築 創建

天守の特色

- ・関ヶ原以前では特に大型
- ・関ヶ原以前では少数派の正方形平面



天守 四重五階

望楼型、塗籠か

1, 2階 8間半×8間

3, 4階 4間×4間

5階 3間×3間

南I

犬走

犬走

馬屋

御殿 (塀)

東I

御殿

云門

本丸門

天守の一般的な位置

・本丸表門から見て

最奥

・本丸御殿の後方



高麗門（こうらいもん）に近い形式

間口：8尺3寸8分（2.54m）

開口部はほぼ正方形：城門の特徴

屋根瓦は昭和の棧瓦、扉（透門）は大破するも残存。



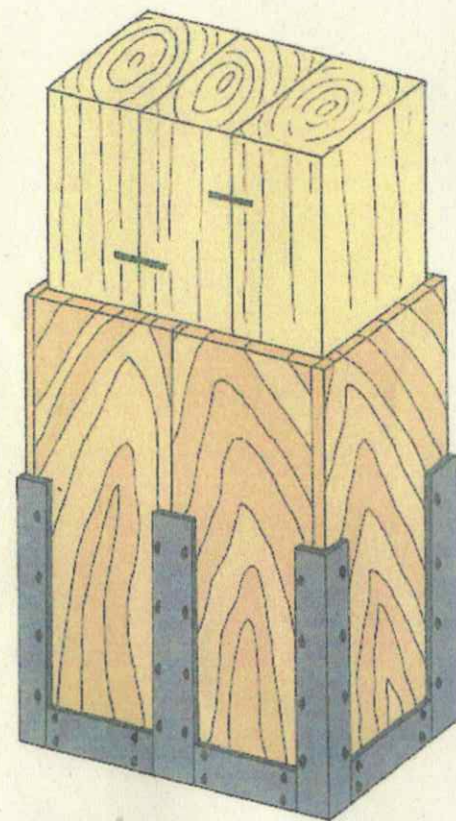
瑞泉寺の門の鏡柱（かがみばしら）

- ・一木造りの五平柱（長方形断面の柱）
- ・細い 7寸5分×5寸5分
227mm×167mm
- ・城門として現存随一の著しい風食

瑞泉寺内の門

金山城から慶長6年（1601）に天守とともに犬山へ移築（金山越し）。

この門は犬山城には移されず、当初から瑞泉寺に与えられたと考えられる。



1. 7世紀前期の一般的な鏡柱

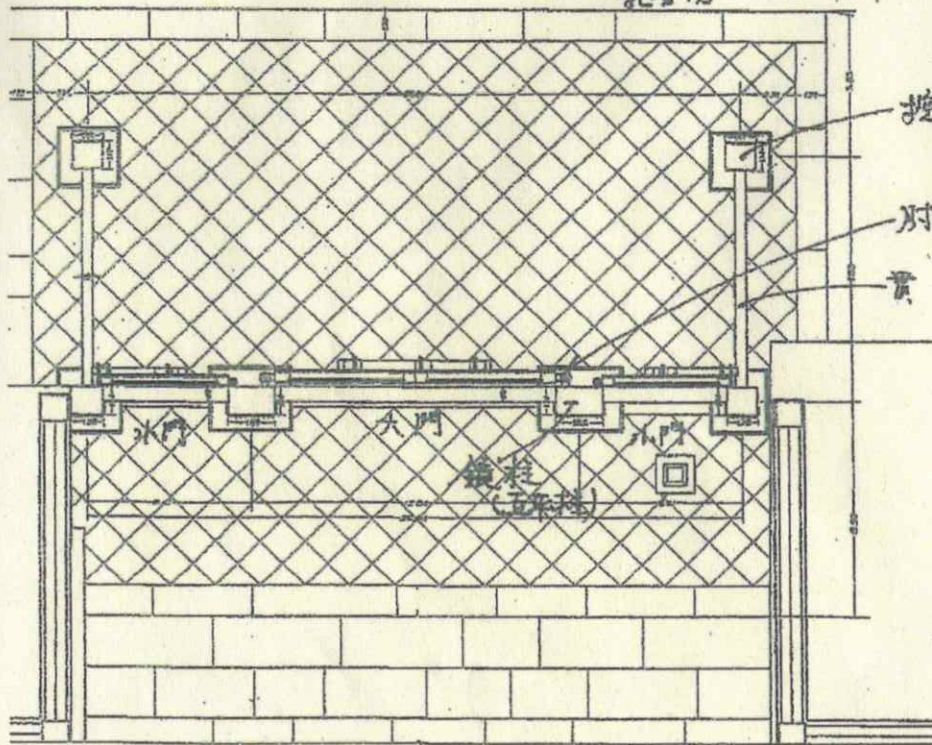
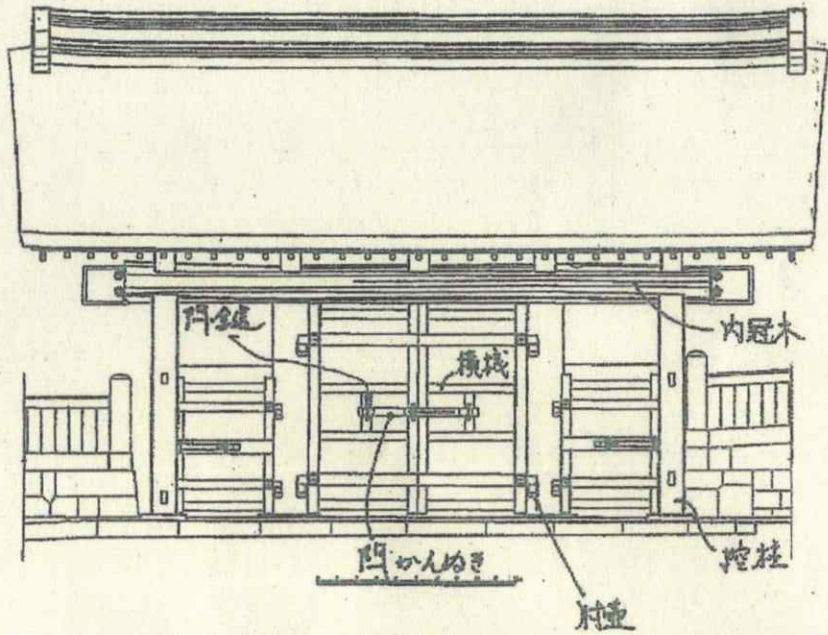
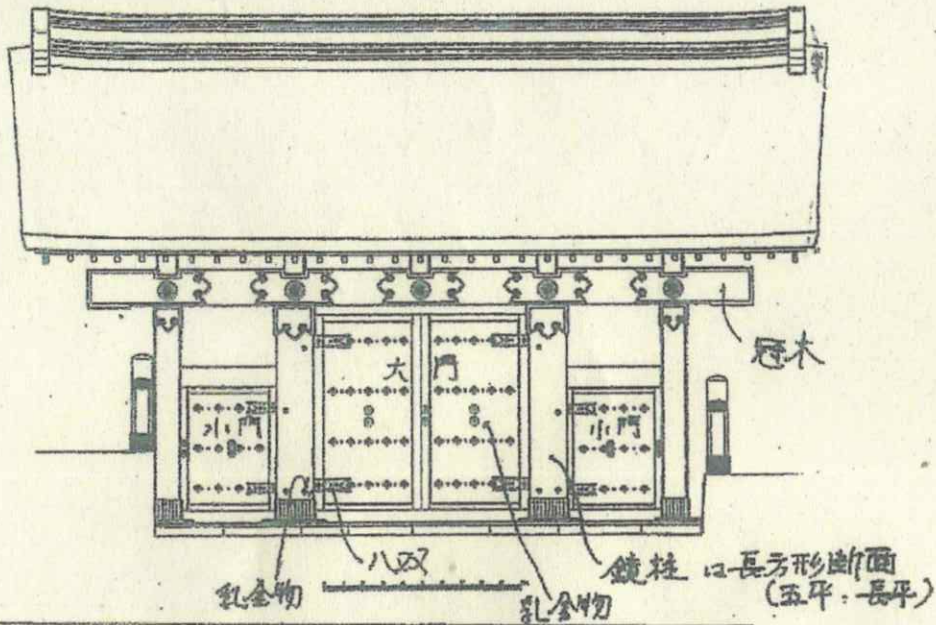
接柱（はぎばしら）：集成材の柱

17世紀前期は大木が枯渇したため、幅の広い鏡柱の材木が得られず、細い材木を束ねて鏡柱の芯を作り、表面に薄い樽板を張って化粧し、その継ぎ目を筋鉄で隠した。

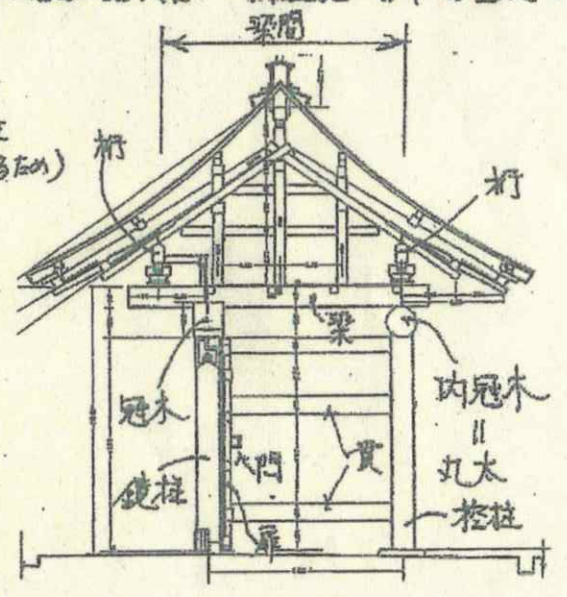
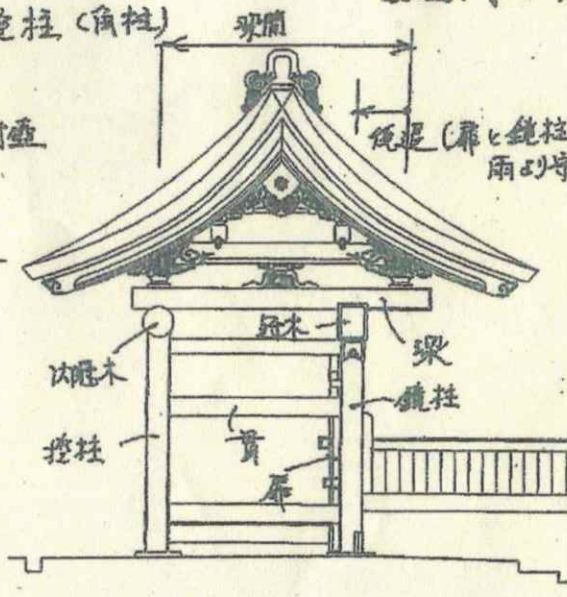
現存最古の接柱は、

慶長4年（1599）の姫路城「り」の門。姫路城・名古屋城・江戸城などでも応用。

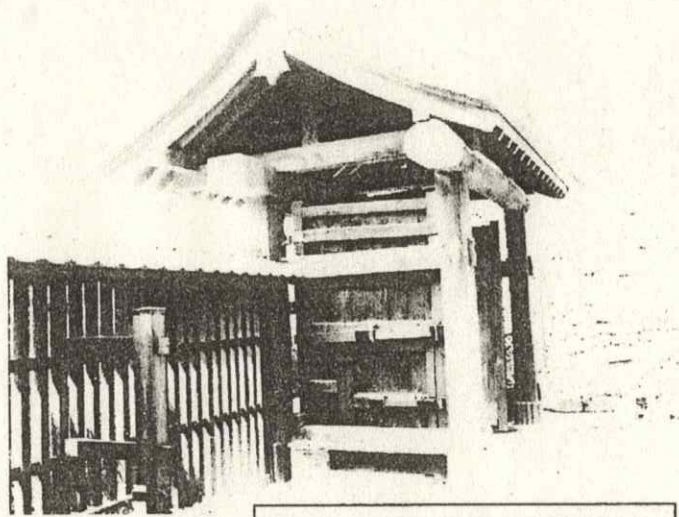
薬医門



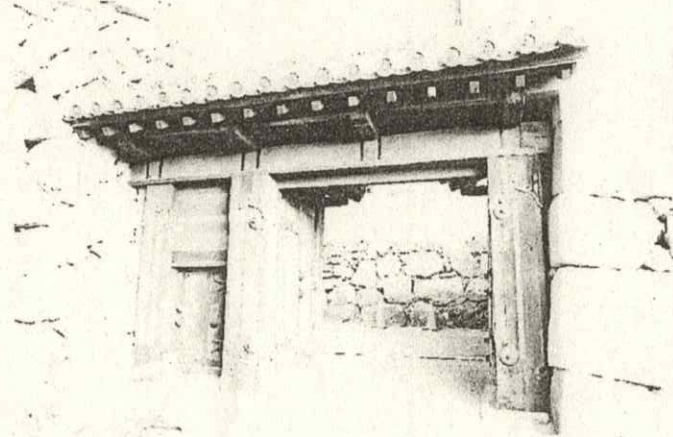
薬医門は 16世紀に創始。17世紀以降は屋敷の門 大名



◎輪王寺本坊表門 江戸前期



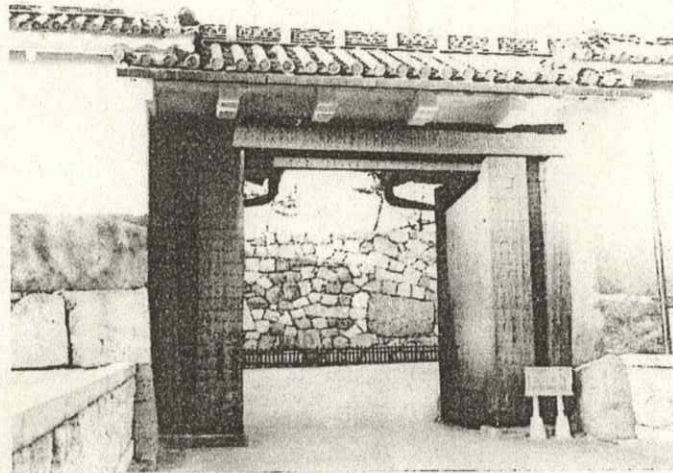
薬医門（宇和島城上り立ち門）



高麗門（丸亀城大手一の門）

高麗門の誕生

秀吉の文禄・慶長の役で薬医門を改良して発明された新型の城門（高麗＝朝鮮の古い国号）屋根が3分割されて小さくなり、太い内冠木が不要となった。材木と瓦の節約ができ、屋根が小さいので、敵兵が隠れにくい。関ヶ原以降の城門の基本形



旧型の高麗門

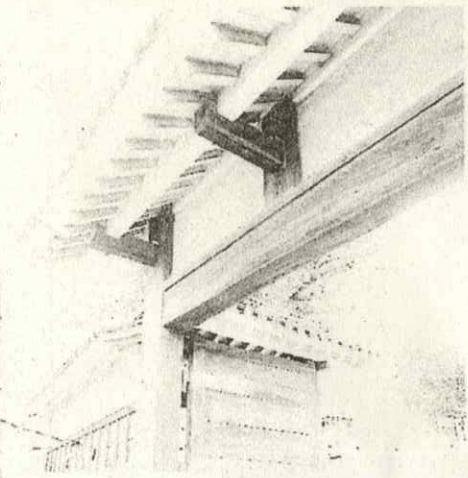
鏡柱の上に冠木が載り、その上に腕木。

（上）姫路城「り」の門

慶長4年（1599）

（下）名古屋城本丸表二の門

慶長17年（1612）

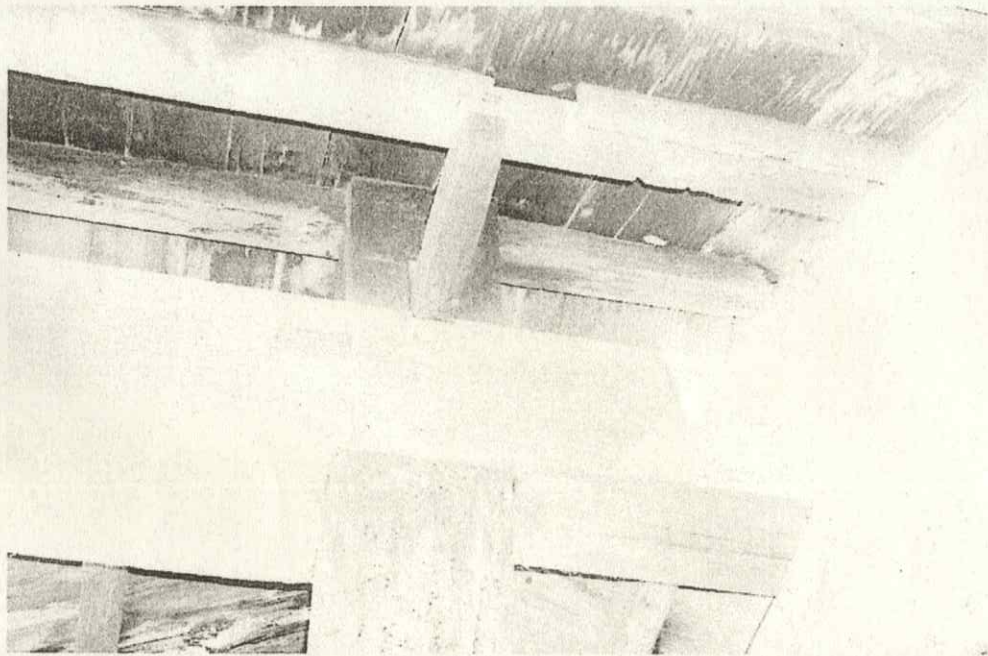


新型の高麗門

鏡柱に冠木をほぞ差し、腕木は上に伸び上がった鏡柱に差し込む。寛永（1624）に始まる。

（上・下）丸亀城大手一の門

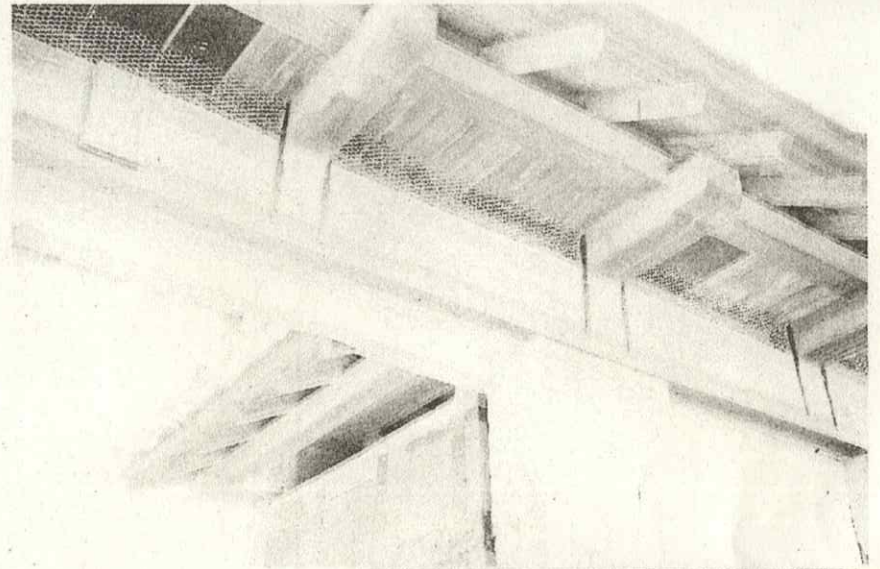
寛文10年（1670）



(左) 瑞泉寺門

超旧型の高麗門

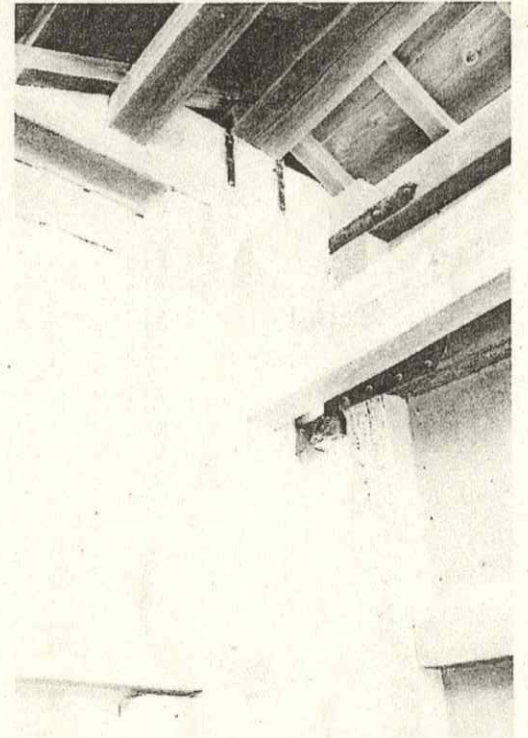
鏡柱の前面に冠木を削り込む（中世の構造）。冠木の上に鏡柱が伸び上がり、腕木を差し込む。背面から見ると（左下）、鏡柱が冠木を超えそのまま上に伸びる。



(右) 姫路城「い」の門

旧型の高麗門

鏡柱の上に冠木を載せる、鏡柱は冠木で止まる。（右下）背面。



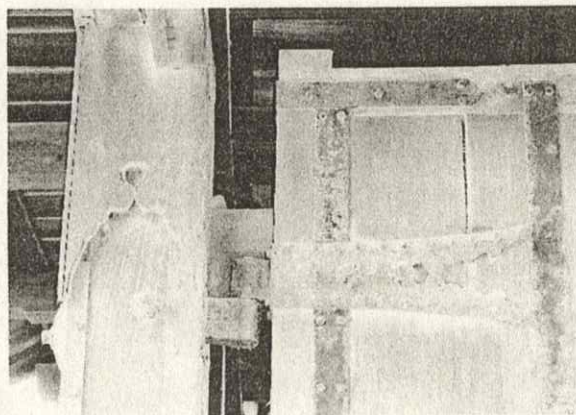


(左上) 瑞泉寺の門

扉を吊る木製の藁座を冠木に打ち付けて、藁座に開けた穴に扉の軸を差し込む。

(左下) 旧横須賀城搦手門

藁座の穴に扉の軸を差し込んで吊る。



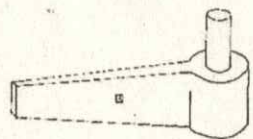
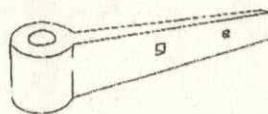
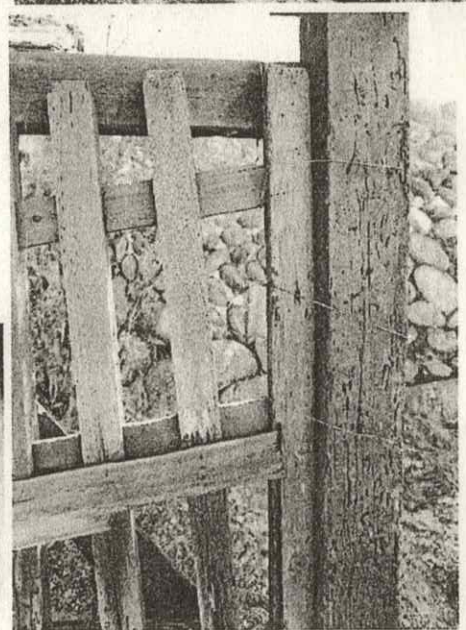
(右) 瑞泉寺の門の扉

透門 (すかしもん)

下半分だけ格子に横板張り、上半分は板を張らずに開放、上框は欠失。横板は1枚だけ残存。

(下) 熊本城不開門

透門



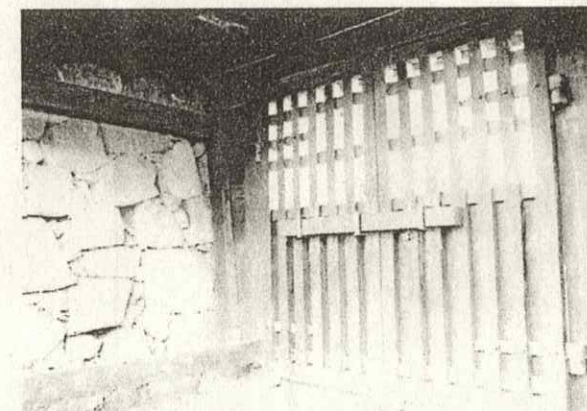
(中上) 姫路城「ろ」の門

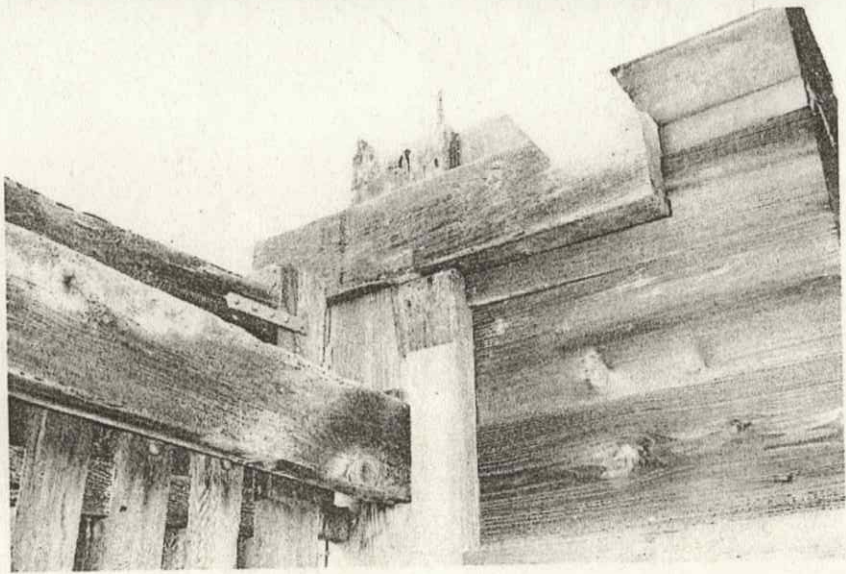
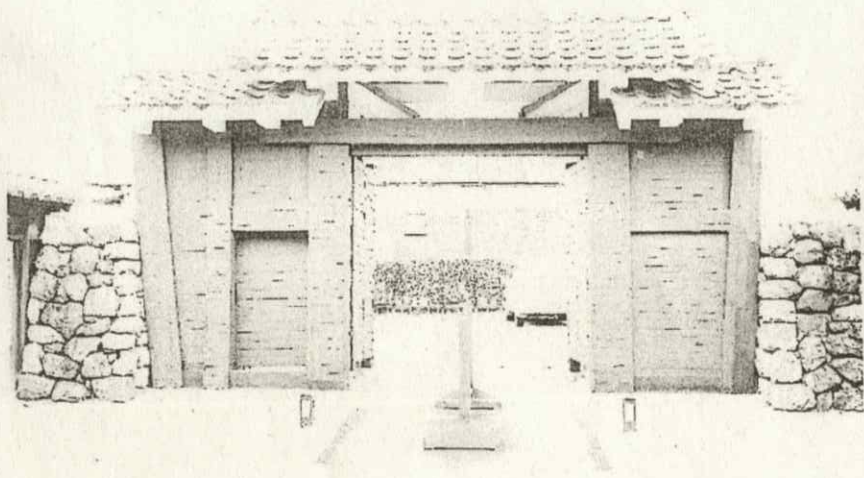
肘壺で扉を吊る

(中下) 肘壺 (ひじつぼ)

壺金 (つぼがね、扉に打ち込む)

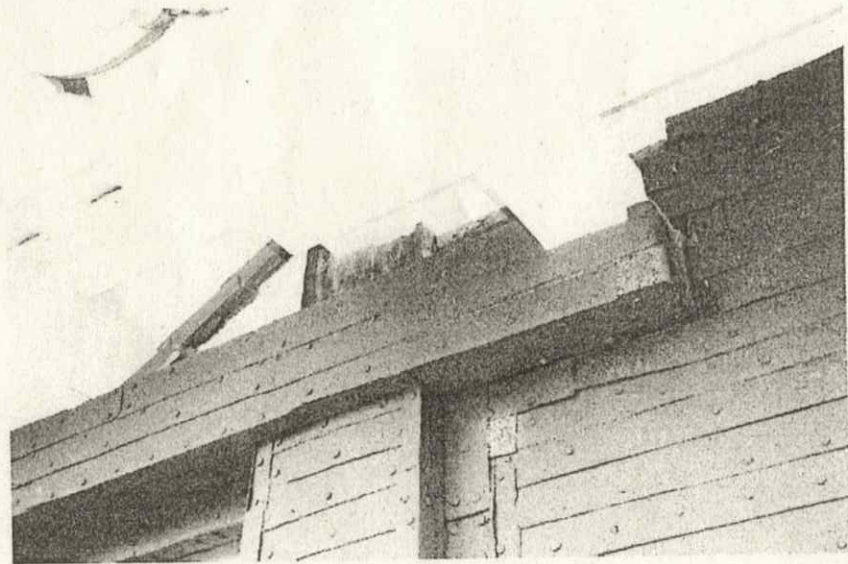
肘金 (ひじがね、鏡柱に打ち込む)





旧大垣城本丸鉄門（くろが
ねもん）岐阜県各務原市へ移築

17世紀後期か 高麗門
鏡柱上に冠木を載せ、冠木上に鏡柱
を伸ばす。



教王護国寺慶賀門

鎌倉時代、八脚門
扉を吊る冠木は柱に打ち付ける

